

第2回鶴岡市こどもの遊び場に関する協議会 会議概要

- 日 時 令和6年12月24日(火) 10時～12時05分
- 会 場 鶴岡市役所 大会議室
- 出席委員
櫻井孝輔／佐藤竜太／梅木広士／渡辺真美／大滝忠／佐藤正和／田中英嗣／富樫繁朋
／本間久士／長谷川玲子／清野康子／今野喜行／丹治亜香音／阿部真一
- 欠席委員 本間妃織
- アドバイザー 仲綾子
- 市側出席職員
鶴岡市長 皆川治／企画部長 上野修／健康福祉部長 佐藤繁義／建設部長 坂井正則
／政策企画課若者・子育て世代応援推進室長 本間育子／子育て推進課長 成沢真紀／
子育て推進課主幹 五十嵐雄／都市計画課長 三浦一夫／子育て推進課課長補佐 五十
嵐広樹／都市計画課課長補佐 本間仁／子育て推進課子育て推進専門員 上野和義／同
小林洋之／同課主事 高木康輔／政策企画課主事 菅原拓磨
- 公開・非公開の別 公開
- 傍聴者の人数 3人
- 協議・報告事項等
 - (1)遊び場に関する市民の意見聴取について
 - ①旧二小跡地活用を考えるワークショップ(資料1)
 - ②市長との対話集会(資料2)
 - ③親子モニター事業の概要(資料3)
 - (2)こどもの遊び場整備方針の考え方について(資料4)
 - ①「キッズドームソライの利用料軽減」の検討状況(資料5)
 - ②既存公園の遊具の更新等について(資料6)

1 開 会 事務局(子育て推進課主幹)

2 挨 拶 (鶴岡市長)

3 報 告 〈議長：委員長〉

(1) 遊び場に関する市民の意見聴取について

議長

遊び場に関する市民の意見聴取について、事務局の説明をお願いします。

事務局(子育て推進課長)

遊び場に関する市民の意見聴取について、資料1、資料2、資料3により説明。

議長

ただいまの説明に質疑等あるか。

委員

キッズドームソライの利用料はいくらか。

事務局（子育て推進課長）

0歳が無料、1歳が500円、2歳が700円、3歳以上が1,500円、付添いの大人は500円となっている。

4 協議

(1) こどもの遊び場整備方針の考え方について

議長

こどもの遊び場整備方針の考え方について、事務局の説明をお願いします。

事務局（子育て推進課長）

こどもの遊び場整備方針の考え方について、資料4により説明。

議長

遊び場整備方針の考え方の骨子の部分を説明した。これについて議論の後、より具体的に話を進めていきたい。今の考え方について質疑等あるか。

委員

コミセンなどに未就学の子どもや赤ちゃんをお母さんが連れて行き遊んだりしているが、こうしたことは考えていないか。

事務局（子育て推進課長）

コミセンや学校施設、体育館なども活用できればと考えている。

議長

第1回目の協議会でも、町内の公園や学校、公民館などが遊び場として知られていないのではないかとの意見があった。こうした施設の活用を検討もいずれ必要と思う。

皆川市長

こどもの遊び場は健康福祉部や建設部所管のものだけではないため、他部署の所管施設も含めて、整備方針の整理の仕方をよく考えるようにする。

委員

整備の基本的な考え方にある、「市民ニーズに応える」ということは、ここに書く以前のことであると思う。多世代の交流など、もっと具体的なことが考え方になるのではないか。

事務局（子育て推進課長）

「市民ニーズに応える」ということを最初に出したいと思っていたが、ご指摘のとおりであり整理をしていく。

委員

第1回協議会での話などから、まず既存施設の活用から、ということが一つと思う。また、市独自の取組やコミセン、地域の公園、公民館をどうするかという議論も必要と思う。

資料4の整備の具体的な方向性の分け方は、わかりやすくいい。これを踏まえてソライの利用料軽減について、運営している(株)SHONAIと一緒にどんなことができるか、また、公園を多世代が交流する場として、何があれば人が戻ってくるかといったようなことに絞って話を進めていくといいのではないか。

議長

我々親世代が子ども達にどんな環境を残していけるかという点で、順次進めていきたい。仲先生に整備方針の考え方について伺う。

仲アドバイザー

コミセンや子供会など貴重な宝をすくい取れないで議論をしても意味がないので、貴重なものを掘り起こしていただきたい。今あるものを全部すくい上げる作業がいったん必要と感じた。

資料4の遊び場の整備において留意すべき内容は言葉として強すぎる部分があるので修正をお願いしたい。遊びの価値を尊重しよう、主体的に遊べる空間を整備することが大事ということが一番に伝えたい。排除や禁止ではなく、未来をみんなで作っていこうという方針を共有しておきたい。国交省の指針の「遊びは全てのこどもの成長にとって必要不可欠なものである」という言葉は、とても良い言葉なので、これをまず前面に出してこどもの遊びの意義として打ち立てた方が、みんなの共通認識としてこれからの議論がしやすいのではないか。

それを踏まえたうえで具体的にどうするか議論し、整備の基本的な考え方を打ち立てるという流れで進めるのがいいのではないか。

委員

骨子の部分で2点ご検討いただきたい。

ハードに偏っていると感ずるため、遊び場を担い、こどものキャプテンになるような、大人の人材育成などにも配慮して欲しい。

また、情報が行き届かないとも感ずるため、情報のデジタル化なども入れると、若い世代の不満やミスマッチも解消されるのではないか。

議長

1回目の協議会の議論でもプレイリーダーの観点が出たため、留意すべき点である。

情報をデジタル化でしっかり伝えるということも検討して欲しい。

事務局（子育て推進課長）

ご意見のような視点も入れていきたい。

議長

仲先生や委員から様々な意見をいただいたので、それに合わせて方針を再構築していく。

次に、キッズドームソライの利用料軽減の検討状況について、説明をお願いする。

事務局（子育て推進課長）

キッズドームソライの利用料軽減の検討状況について、資料4、資料5により説明。

議長

ソライについて、親子モニター事業の報告をもとに話し合いを進めたい。

まず屋内の遊び場を新たに作った方がいいのか、既存の施設を利用する方がいいのかという話をし、その後、既存の施設を利用するとすれば無料がいいのか、または有料がいいのかという点について意見をいただきたい。

親子モニターのアンケートでは、「既存の施設の利用料軽減」と「大型の屋内施設を作る」が拮抗していると思う。このデータを見ての意見を伺いたい。

委員

自分としては、既存のソライを活用していくという方向でいいと思う。実際に料金の引き下げを提案してくれているので、やってみて、さらに意見が出た場合はまた考えるという方向性でいいのではないか。

委員

ソライのツクルバで遊ぶと材料費もかかってくると思うので、無料は難しいという部分もあると思う。提案はだいたい料金が抑えられているので、まずやってみて、皆さんの意見を聞

くのも一つと思う。付添いの大人1名無料というのは大きい。

また、公園整備も大事だが、公園へ行くまでの道のりの安全性ということも重要な視点であるため、頭の隅に置いて欲しい。

小さい子どもがいれば大型施設があればいいと思うだろうが、これから少子化になっていくことを考えると、新しい施設を作る必要はないと思う。巨額な投資をして新しい施設を作るよりは、既存の施設を充実していくことと、プレーパークは近辺にないので目玉になるのではないか。

委員

自分も新規で作る必要は全くないと思う。既存施設の掘り起こしをしていない状況でそれをやる意味がわからない。

鼠ヶ関からソライに行くことが想像できない。近くに住んでいる人は良いが遠くに住む人が置き去りにされている感じがする。ソライが屋内施設のすべてのソリューションになるという考え方を一度やめた方がいいのではないか。

屋内でこどもの遊び場となる事業者を手上げさせる方法もある。自分は自然や文化、暮らしを題材にした体験活動をやっているが、鶴岡の方たちは料金が高いから来ない。事業者に平等に競争させて、サービスをどんどん磨いたほうが鶴岡の独自性にもなると思う。

ソライだけでなく、子ども達を積極的に受け入れて鶴岡の人材を育てたいという人たちを発掘して、そこに補助をしていった方がいいのではないか。

議長

鶴岡市は面積も広いので、一つで賄うことはなかなか難しく、どういった形で運用できるかということも重要と思う。

一方で、他市町村では新しい大型屋内施設ができて羨ましい、鶴岡にも新しい施設があってもいいという意見もあると思うが、どうか。

委員

自分も、財政や人口減少の問題から、新たな施設はいらないと思う。出来る範囲で出来ることから優先順位を付けてやるべきと思う。1番は既存のものを有効に生かすこと、2番目に鶴岡市の独自性ではないか。

アンケートで回答の多い既存施設の利用料軽減、屋外遊び場の充実、体育施設などの開放に注力し、まずソライからやってみることでいいのではないか。公園整備や施設の開放は並行して出来ると思う。

ソライはどの年齢層をターゲットにしているのか。一定の利用層を考えれば、例えば小学生までは無料でもいいのではないか。小学生が自分のお小遣いで利用しようと思うと500円は高いと思う。

中高生については、周辺のベンチャー企業や高専と連携して何かできるのではないか。中

学生以上はソライで遊びたくなる要素があるのかということもあるので、まず小学生までを使いやすくして、次にどうするか検討すればという話だと思う。

学校や公民館の活用は管理の問題もあるが、土日だけでも管理人が常駐するなど工夫すればできるのではないか。

議長

料金の考え方については、この後深掘りしていきたい。

委員

既存施設の活用が多数派のようだが、私はやはり新しい施設を作って欲しいと思う。

障害がある娘は小さいころから、公園に行っても遊べる遊具がなく、他の子ども達が楽しく遊んでいるところをただ見ているばかりだった。今の時代になっても、やはり障害のある子どもさんが遊べる遊具がなく、きょうだいで公園に行っても我慢をしなければならない。この機会にいろいろと考えていただけることを期待したい。

こどもの遊び場がテーマだが、家族と一緒に楽しめたという思いもあり、そのためにはやはり新しいものを作っていただきたい。

議長

1回目の協議会で、三川の道の駅は祖父母と孫と一緒に遊べ、車いすでも動線がしっかりしていて良いところだという評価をされている。

委員

ソライの料金案で、障害があるこどもの割引は考えていないか。

議長

先ほど委員から質問のあった利用者のターゲットと合わせて事務局の考え方はどうか。

事務局（子育て推進課長）

ソライはアソビバが小学生まで、ツクルバは中学生以上も使えるが中学生・高校生の利用はあまり多くないと聞いている。昨年度ソライ利用者の約半数は大人で、約半数が子ども、そのうち約6割が未就学児、残りが小学生となっている。3歳児ぐらいから小学校3・4年生ぐらいの利用が多い。

障害のあるお子さんの利用料軽減について、今のところそこまでの議論には至っていない。

委員

私も既存の施設を利用するのがいいと思うが、今出された新しいものを作るということも、一つの視点としていいのではないかと思う。山形にあるインクルーシブの遊び場は、障害があっても無くてもみんなが使えるように整備されていて、鶴岡にもそういう遊び場が必要かと思う。こども達は遊び込んで、いろいろな遊びを通して学んでいくので、障害目線に合わせた遊び場は大事だと思う。

ソライはお金がかかって行きづらいというイメージが出来ている。これから安くして、どのくらい使いやすい施設になるか、PRの仕方が大事であると思う。

市内には閉校した小学校の校舎が多くあり、こがたランドのように地元の人たちが遊び場として整備し、身近に遊び場を作るという利用の仕方もあるのではないか。こどもの遊びは小細工をしなくてもいろいろな遊びに発展する。お金をかけずに空いている施設を利用するのも一つの手法と思う。

議長

先ほど委員からあった「新しい施設を作って欲しい」という提案には、例えば廃校した校舎などをリニューアルするようなことも入るか。それとも新しく建てるほうがいいか。

委員

やはり今の時代に合ったものを作ってほしい。予算などについては市当局から考えていただきたい。

委員

整備の基本的な方向性の表はわかりやすく良い。

キッズドームソライについては、市民ニーズとして料金がかからないほうがいいということがあるので、まず下げてみてはどうか。ただ、民間企業で質を落としたくないということはあると思うので、使い続けてもらうためにも企業努力が必要であると思う。他にも民間で活動している団体があるので、考えていってほしい。

こどもの体験や教育は経済状況によって格差があってはいけない。そういう面から考えると、一つできることとして、ソライの料金を下げることがある。

民間で競い合ってブラッシュアップしていくことも大事なので、補助金の方向性も考えてほしい。

また、遊び場は遊具や広さだけでなく、誰でも入りやすいよう入口をスロープにしたり、トイレや水回りなどの整備も大事だと思う。

児童館は18歳まで利用できるのも、児童館でどういう取り組みができるか検討するなど、お互いに工夫し合うことも大事だと思う。

議長

経済格差によって利用できるかどうかや民間事業者の努力といったことも確かにあると思う。また、誰でも使えるためにどのような観点で施設改善が必要かということもある。

議論の内容を、既存施設の利用か新しいものを整えるかということだけでなく、料金についても意見をいただきたい。

委員

ソライの主な対象が小学生だとすると、0歳から2歳が無料というのはいいと思う。ただ、無料を求める市民が多い中で、3歳以上500円を払っていく人がどのくらいいるか。長期休暇中はソライのマンスリーパスを利用するという人もいる。マンスリーパスの市民割引があれば利用者も増えるのではないか。

庄内町には「こっころ」という施設があるが、逆にそこしかないため、庄内町民は遊び場が少ないと言う。鶴岡には児童館などの施設があちこちにあって、施設の職員も一緒に遊んでくれたり、イベントなどもあっていいと思うが、あまり活用されていないと感じる。新しい施設を作ると言うよりは、既存の施設の活用や、情報の周知をぜひやってほしい。

議長

ソライの利用料は小学生までは無料という考え方がいいというお話か。

委員

私は500円払ってもいいと思うが、あちこちに無料で楽しい施設がある中で、わざわざお金を払ってソライに行く人が増えるかという疑問がある。

議長

わざわざ制度を作っても利用につながらないと制度に欠陥があることになる。

第1回協議会では中央児童館が老朽化して使えないところがある、何か新しく作るより、人の手をかけて修繕して使っていきたいというコメントがあり、その延長のお話と思う。

委員

私としては、1番目にソライの活用、2番目に既存の公園で多世代が交流、3番目に鶴岡市独自の取り組みとしたい。

まずソライからスタートして、成功事例を作りながら他の取り組みも考えていく。次に公園のほか、コミセンや公民館、学校などを活用すること。鶴岡市独自の取り組みとしては、人口減少の中で人を呼ぶために、鶴岡の魅力である食べ物や人柄、自然、文化、歴史などを活かしながら、鶴岡はいい街だと思えるようにすることをベースにして、今あるものを見直しながら小さいものをあちこちに作っていくことがいいと思う。

インクルーシブや水回りを含めた遊び場や公園の整備状況が見える化したマップを作り、それをデジタル化してもいいと思う。

鶴岡は広いので、大きいものを作って一点集中型にするよりは、点在しているからこそ面白いという発想に切り替えて、大きいところとしてソライを活用し、他に鶴岡の特徴として点在化した遊び場というのがいいのではないか。

議長

大型屋内施設としてソライの活用、次に既存の公園の活用、それから鶴岡は面積が広いので点在にして、小さな多様性のある施設を整備してはというお話だった。

ここで仲先生のコメントをいただきたい。

仲アドバイザー

「新しい施設を作って欲しい」という意見の背景には、本当は新しい施設が大事なのではなく、障害のあるこどもが、みんなと一緒に遊べる場所を作ることが大事なのだということと思う。全国に新しい施設はたくさんできているが、障害があるこどものことは考えていない施設もある。一方で、既存の施設を改修してインクルーシブな環境を作る取り組みも始められていて、鶴岡がその先端を切っていくという方法もあると思う。

ソライは他の施設と比べると料金が高い。他の施設は無料や、高くても300円くらいだが、ほとんどは公共施設であり、民間で公共施設と同じ価格で運営するのは大変なことと思う。ソライは、営利目的ではなく、子育て世代のために公益的なサービスを生み出しているという方針を明確にするなど、課題を整理しないとイケないし、ソライの側でも、今後の新しい取り組みに対する議論が必要と思う。

皆川市長

今回の議論を受けて遊び場の整備方針をまとめていくことになるが、ソライの料金について、今回は500円自己負担という提案をしているが、どう設定するか整理して、合意形成できるようにしていきたい。

委員から提案のあったインクルーシブの視点での施設整備や、こども達の体験に取り組んでいるリーダーの掘り起こしなども踏まえて、庁内の部署での調整を行いながらまとめていきたい。

議長

遊び場としては様々な施設があるので、範囲を広げて重層的な考え方をしていけないといけない。施設だけでなく運営についても検討したい。

まずはソライの利用料金について、皆さんの意見を踏まえて事務局でまとめたい。

続いて公園の遊具の更新について、事務局から説明をお願いします。

事務局（都市計画課長）

既存公園の遊具の更新等について、資料6により説明。

事務局（子育て推進課長）

既存公園の遊具の更新等について、資料4により補足説明。

議長

既存公園の老朽化に対応していくという説明について、質問等はないか。

委員

建設部は維持することが仕事になるが、大きな議論の中で遊具をどうするかという全体的な視点も必要と思う。日常的に使う公園と大きな公園の役割は違うので、そこを含めて議論するといい。公園は車いすが入りにくかったり金網で囲まれていたりして、心理的にハードルが上がるので、それらを改修するなど、小さなところから工夫できることはたくさんある。

委員

地域の公園は主に地域住民が使うので、良い点や不足している点について、デジタルを活用してアンケートをとれば、市民の意見を取り入れながら、共通点や地域の独自性が出せるのではないかと。その中で老朽度や利用状況を見ながら優先順位を決めて整備していけばいい。子育て世代の意見は丁寧に拾って分析していくことが必要である。

委員

この協議会のテーマは、こども達をどこで、誰と、どうやって遊ばせるのか、今のこども達は何をしたら喜ぶのかを整理する場と解釈している。目的はこども達を楽しく遊ばせることで、大人の自己満足であってはいけない。大人も遊び心やサプライズがあってもいいと思う。大人に遊び心があればいいアイデアが出て、ときめくような楽しい公園になるのではないかと。遊具の更新については、あくまでもこども達を楽しく遊ばせることを視点に考えて欲しい。

全国的にも、タイヤだけで作った遊具を置く公園や、ガラクタ公園、カラフルな滑り台など家族で行っても面白そうな公園が整備されている。こういった公園の情報があれば教えて欲しい。

事務局（都市計画課長）

ご紹介のあった公園は東京都の大田区と港区にある特徴的な公園で、設置した目的などを含めて今後の公園整備の参考としていきたい。

仲アドバイザー

委員の皆さんからそれぞれ意見をいただけたことは貴重で、みなさん遊び心があり、こどもの未来を考えるにふさわしい協議会になっていると思う。

皆川市長

今までは事務局が提案して一任するようなことが多かったが、これからは住民の皆様の方にはまちづくりや遊び場の整備はできない時代だと思う。意見の中で必要なものは本格的にシステム化して実行に移していく。

こどもの意見は重要であり、遊び場の整備方針についてもこどもの声を聴きながらまとめていく。

議長

以上で協議を終了する。

5 その他 事務局（子育て推進課主幹）

第3回目の協議会は改めて案内する。

6 閉会 事務局（子育て推進課主幹）

— 12時05分終了 —